

令和4年度 自己評価書

学校名	北海道苫小牧西高等学校
-----	-------------

1 本年度の重点目標

生徒一人ひとりの資質能力を磨くとともに、「自立と共生」の精神を育成する

- (1)基礎学力の確実な定着と自発的に学習に取り組む態度の育成
- (2)豊かな人間性と寛容性、公正な判断力や社会性の育成
- (3)健康・体力の増進と自他の生命を尊重する態度の育成
- (4)主体的に自分の生き方を考え、進路を切り拓く力の育成
- (5)広い視野と教養を身に付け、社会の発展に貢献する態度の育成

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
学習指導	教育課程・授業改善等	個別最適な学び、ICTの積極的な活用を通じ、授業改善に努めている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	①「個別最適な学びと協働的学び」に向けての授業改善が、急務である。わかる楽しさを体験できる授業、自力で探究したいと思うようなテーマやヒントが見つかる授業の実践を積み重ねていく。 ②ICT教育は引き続き実践的な研修会を開催、実践していく。 ③観点別評価の課題は、教科の意見を集約しながら、引き続き研修を深める。
		観点別評価をはじめ、学力の3要素を常に意識した授業改善を行っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
		教職員研修を活性化させ、地域や生徒の状況に即した社会に開かれた特色ある教育課程の編成、実践をしている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
	学習意欲・学力向上等	基礎学力向上のため、学習習慣の定着を図ることができている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	①各教科における探究的な学び、教科横断的な学びについては、カリキュラムの内容など、職員全体の研修や理解を深める。 ②民間の学習ツールを全学年に導入し、家庭学習の一助とする。授業とのコネクト、面談資料等との関連も可能であり、有用な活用を進めていく。
生徒指導	生徒指導等	多様な生徒一人ひとりの学習のモチベーションを向上、維持させる具体的な指導に努めることができた。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
		生徒の規範意識を高め、規律正しい生活習慣を身に付けさせる指導を行っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	A	B	いじめ防止委員会の運営方法、いじめ案件についての対応フローを学校全体として整理し、どのように対応に当たるのかを明確にする。また、いじめアンケートの実施内容(時期・本校独自の質問内容)を精査し、その後の対応(担任以外による聞き取り等)も含めて在り方を検討する。
		生徒の生命尊厳の心を育み、いじめのない学校を目指した取り組みができている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
		生徒の話を傾聴し、先延ばしにせず、丁寧な指導(個に応じた指導)を行っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	A	B	
	特別活動	家庭や関係機関との連携、教員間の連携等、日頃からの情報共有を大切にし、指導方針の共通理解、一本化を図り、実践することができている。(保護者に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
進路指導	キャリア教育	生徒会行事ならびに生徒会・委員会活動は、内容の充実と改善を図っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	A	B	活動を通して生徒が自分自身の成長を実感できるものとなるよう、今後も生徒会活動の内容の充実と改善を図る。
		各学年における進路指導計画を策定し、キャリア教育の充実を図っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
		小論文指導を推進し、社会で必要とされる読解力や表現力の育成を図っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
		進学講習をはじめ、進学希望に応じた指導の充実を図っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
健康・安全指導	健康安全	全員の就職内定を目指し、積極的な情報提供を行うとともに、学年と連携した就職指導の充実を図っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	①各学年で実施している進路講演会は、より一層の生徒の意欲喚起につながるよう、内容や時期についてさらに検討する。 ②面接指導は、教員側の細かい指導の部分について、統一した見解が持てるように検討する。 ③進路希望調査等の結果を活用し、生徒の進路希望にマッチする各種模試、学習指導について、さらなる検討を深める。
		上級学校・企業等、外部機関との連携を強化し、生徒の進路意識の高揚を図っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
		日常的な保健指導や感染症拡大防止対策を強化し、生徒の健康維持に努めている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
		防災に対する知識や訓練を実施し、生徒が主体的に防災活動に臨む態度を育成することができた。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	A	A	
組織運営	教育相談等	生徒の健全な成長や発達を共感的に支援する相談活動の充実に取り組むことができた。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	A	B	①不安や悩みを抱える生徒への対応の仕方、気になる生徒の状況を早めに全教員で情報共有できるものの準備を検討する。 ②サポートを必要とする生徒の中には、サポート前に進路変更を考える者もいるので、何かしらの手立てを検討する必要がある。サポート委員会の定期開催など、潜在的に課題を抱えている生徒についての情報共有や対応の協議を行う形を含めて検討する。
		学校不適応傾向を示す生徒の早期発見、早期対応に努めている。また、校内における特別支援教育の充実に向け、組織の強化を図っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
		生徒一人ひとりを大切にし、生徒が主体的に進路実現に向かう学校づくりを行っている。(生徒に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	
	信頼される学校づくり	経営参画意識と協働意識を持ち、信頼される学校づくりを行っている。(保護者に対するアンケート結果で肯定的な評価となる3.5以上を評価A、2.6以上を評価B、2.6未満を評価Cとする。)	B	B	

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

生徒または保護者に対するアンケート結果で、肯定的な評価となる3.5以上を評価Aと設定し、全項目、評価Aまたは前年度比+0.2p以上を指標として教育活動に取り組む。

- 1 「個別最適な学び」を実現するICT教育の積極的活用、観点別評価(学力の3要素)を常に意識した一層の授業改善を図る。
- 2 学習意欲の向上・維持を図るため、多様な生徒一人ひとりへの具体的な対応を行う。
- 3 一方的に指導や感情的指導をせず、まずは生徒の話や聞くなど、丁寧な指導をしていく。また、問題が起こった際は、先延ばしに絶対にしない。
- 4 日頃からの情報共有や複数での対応、指導方針の共通理解など、教員間の連携を強化する。また、「気になる生徒」へのサポート委員会を中心とした組織的支援の活性化を図る。
- 5 3年間を見通した「総合的な探究の時間」の計画・実施を行い、また、系列的なキャリア教育を推進し、多様な進路希望実現のサポートを確実に行う。